

中 北 海 道

現代俳句協会

会報
105号

令和7年
12月2日発行

発行人 五十嵐 秀彦
〒〇六四〇九五二 TEL〇一六四一一〇〇七
札幌市中央区宮の森二条八丁目一八Fよしと方

編集人 青山 醉鳴
〒〇六一一三五四 TEL〇九〇一三三九八三四五七
恵庭市島松旭町四丁目九の一



『明日香風』にのつて

中北海道現代俳句協会副会長

松 王 かをり

す」とある。

今年の三月二十一日に、奈良の伯母、河合和子が亡くなつた。大正十五年生まれ、数えで百歳だつた。私の一番早い俳句との出会いはこの伯母を通してであり、いつかそのことを書きたいと思っていたので、この機会に。

師範学校を出て小学校の教員をしていた伯母は、同じ教員だつた伯父と知り合い結婚した。その嫁ぎ先が、奈良県高市郡高取町、〈葛城の山懷に寝釈迦かな〉の阿波野青畝の郷里である。

伯母の上梓した句集『明日香風』（平成十七年の「あとがき」には、「青畝先生のふるさと高取に住む私にとりまして、俳句への道は、極く自然のなりゆきであります。それは、一本一草すべて俳枕であられたであろう青畝先生と、その原風景を共にしているという、限りない誇りと喜びが、あつたので

れていた小学生の私は、衝撃であった。難しいことなど何もわからなかつたが、なんだか秘密をのぞいたような気がして、胸がざわざわした。

伯母が生涯に一冊出した句集の題字は、私の父が書いた。それを聞くやいなや、『明日香風』にのつて伯母の声が聞こえてくる。

明日香風渡る千瓢乾しにけり 和子

句帳出すわれに目ざとき孕鹿

奈良茶飯しぐる塔を眺めとす

こんなふうに奈良の風物を詠んだ句も多いが、家族や身近な人を詠んだ句もある。

夏瘦せと言ひそらす恋知りにけり 和子

寡黙なる夫は日焼の一教師

台風の眼の中に説く法話かな

「夏瘦せ」の句は、おそらく従姉のことだろう。三句目四句目は、住職だつた私の父のことである。こんな句を読むと、詠まれた人たちの声まで聞こえてくるのである。

私は今、伯母の一生を凝縮したようなこの句集を手に、感慨に浸つている。ともかくも、俳句という不思議な世界があることを、一番先に教えてくれたのは、間違いなくこの伯母なのである。最後に私の最も愛する二句を。

好きな会夜な夜な月の名もかはり 和子

紫煙ともさにあらずとも牡丹焚く

（まつおう・かをり 銀化・雪華）

令和七年中北海道現代俳句協会

俳句研究交流句会報告

組織活動部 及川和弘

R7.8.30(土)
於かでる2・7

令和七年八月三十日、今年度の俳句研究交流句会がかかる2・7にて開催されました。雨の降る中ではありますが出でたが出席者は三十七名、学生の方など若い世代の参加もあり、活気のある交流会となりました。

進行の及川和弘の開会の言葉に続き、例年同様に点取りだけではない研究会にとの五十分秀彦会長の挨拶があり、句会司会の鹿岡真知子さんの挨拶のち速やかに各人一光六客の選句に入りました。

引き続き、参加者全員の自己紹介を頂いて、選句結果の披講がなされました。

休憩を挟んだあと句会では特選句・並選句の互選の評の他に、各人が選句されなつました。時には皆様の俳句に向かう姿勢や句の解釈、若い世代の方の感性に触れ盛り上がりのある交流句会となりました。

句会の後は瀬戸優理子副会長の挨拶をもつて予定通りの時刻に閉会の運びとなりました。(おいかわ・かずひろ ペガサス)

会員内外の多くのみなさまのご参加に心より感謝いたします

(中北海道現代俳句協会・組織活動部一同)

令和七年 俳句研究交流句会作品

数字は
特選の数

全波長反射の白だ雲の峰

石本 雪鬼

1 睡蓮を動かしている風いろいろ

鹿岡真知子

焼酎と兵に甲乙ありて闇

青山 醉鳴

4 八月のつと立ち上がる絵画かな

橋 橋

1 牛は寝たか学園祭の遠花火

岡本 順子

2 遠縁の子かと思へば河童の子

小川 長野

銀河鉄道ひまわりの椅子がある

中村みづほ

1 いかづちや武人埴輪の目の空洞

中村 洒洒

3 あじさいやあなた由来の成分で

及川 和弘

1 いろはすのボトルの薄き半夏生

F よしと

1 そわそわと台車にのせる夏休み

江草 一美

2 路地裏に父を待ちたる祭の夜

村瀬ふみや

1 八月の肉声ずくん刺さりをり

三谷なな子

1 身に入むや恐竜の骨人の骨

齋藤 雅美

2 稲穂波故郷へ帰る權持たず

増田 植歌

2 八月の忌日を累累と綴ぢる

松山 一草

1 厥世家鳴いてる間に郭公に

村 西宮 ケイ

3 三伏の一頁づつ剥がれ落つ

中田眞知子

4 うちあけて少しうちとけかき氷

石井 美鬚

1 嘘泣きの女給を包む螢の夜

中川みどり

2 八月の全てが終わりそうな雲

阿部 満子

2 夏の夜死者の名前で鳴る電話

田中 黙

五十嵐秀彦



会長挨拶・右は句会司会の鹿岡真知子さん

◇ご参加のみなさまへのお願い◇

当日の欠席・遅刻の場合は、開会前に必ず組織活動部幹事までご連絡ください

ひまはりはそちらを向いて咲きました

古川 和

シスターの産毛光りて秋澄めり

ただすみれ

星月夜琥珀の中の鏡の弾

遠藤由紀子

首振るやパンダの子どもとこよむし

小根 楓子

十六夜の鎖骨の沼が深くなる

瀬戸優理子

蝙蝠の視界原初は天動説

梅北 窓

立秋や抽斗ひとつ分整理

和佐 尚子

街騒の追撃窓に秋暑し

小路 裕子

佇みてわたしを視てる鹿の王

喜多尾利彦

六尺を器用に畳み三尺寝

近藤由香子

1 プールにおう未来を諭さないでくれ

角田 萌

〈以降は当日欠席者の句〉

是非もなく世相見てをり金魚玉

白洲アテナ

共感の須可捨焉乎しづの女忌

林 冬美

戦争を吐き出している青大将

亀松 澄江

拾ひやる球の一礼薄暑光

大河原倫子

柄の実の艶失せぬ間に恋の文

横山いさを

4 うちあけて少しうちとけかき氷

中田眞知子

1 嘘泣きの女給を包む螢の夜

石井 美鬚

2 八月の全てが終わりそうな雲

中川みどり

2 夏の夜死者の名前で鳴る電話

阿部 満子

1 嘘泣きの女給を包む螢の夜

田中 黙

2 夏の夜死者の名前で鳴る電話

五十嵐秀彦

第一二三回 大とかち俳句賞全国俳句大会報告

広報部 青山 醉鳴

R 7. 9.20(土)
於 とかちプラザ

賞全国俳句大会は当会副会長・松王かをりさん「鶏頭の残像と幻像—子規忌に因んで—」と題した講演で始まり、数名の選者選評のあと、大とかち俳句賞の信藤詔子さん、新会員の松山りささんの四賞などが顕彰された。大会終了後の懇親会はあいにくの豪雨の中、全道各地からの参加者が出席し盛会となつた。
(あおやま・すいめい 雪華・ita-k)

課題句（兼題・根）

大とかち俳句賞

名画座を出て白鳥の羽根の中 信藤 詔子
北海道十勝振興局長賞・中原道夫特選第四位
根の国の方へ押されて蓮見舟 松山 りさ
帯広市教育委員会教育長賞
半分は根のない話水中花 小川 桂
十勝文化団体協議会賞
シャンソンが好きで大根卸し役 長野 君代
東北海道現代俳句協会賞
屋根の雪下ろしひとりで生きてゆく 青山 醉鳴
宮坂静生特選第一位
根の國の根を腐すかの溽暑なり 青山 醉鳴

帯広市教育委員会教育長賞・宮坂静生特選第五位
つまらないおとなになつた墓蛙 松山 りさ
雑詠句

第二三回大とかち俳句賞 全国俳句大会 入賞作品（関係分）

十勝毎日新聞社賞
蝶が肩に今日は優しい木でいよう 小川 桂
佳作 円周率永遠辣韭剥いている 亀松 澄江

R 7.11.2(土) 東京タワー
於 R 7.11.3(日) 東天紅上野店

第六十一回

現代俳句全国大会・前日祭報告

中現俳副会長 松 王 かをり

R 7.11.2(土) 東京タワー
於 R 7.11.3(日) 東天紅上野店

前日祭は、「俳句と昭和百年」ということから、昭和の象徴である東京タワーの展望台で行われ、第一部のトークセッションにパネリストとして参加してきた。ファシリテーターが田島健一（以下敬称略）、他のパネリストが彌榮浩樹、成田一子。現代俳句の百年を現代から遡つて振り返り、未来を考えるということで、「俳とは何か」「季語の使い方の多様化」「ポストコロナ・ポスト震災の俳句」などがテーマとなつた。

第二部は「東京タワー俳句大会」。東京タワーをテーマにした応募句三三三句の中から、入選作品を発表し表彰した。十三時に始まった前日祭が終わるころ、窓から夕焼けの富士が見えるという僥倖も。

翌日の全国大会は、まず各賞の授賞式から始まつた。現代俳句大賞の中村和弘、協会賞の大井恒行、評論賞の元木幸一、年度作品賞のなつはづき・水口圭子、新人賞の百瀬一兎。その後、大会作品選考の結果発表があり、入選作品の披講と授賞式が行われた。中現俳の瀬戸優理子の応募作品「ヒヤシンス昼のさみしくない孤独」は、池田澄子の特選に選ばれた。今年の応募数は一二二二句。

休憩を挟んで、高野ムツオ会長による記念講演があり、演題は「わたしの昭和俳句」。師である金子兜太、佐藤鬼房のことを中心にもとも興味深い話であつた。来年の全国大会は、東海地区の予定である。

(まつとう・かをり 銀化・雪華)

第六二回 現代俳句全国大会（関係分）

池田澄子 特選・佳作

ヒヤシンス昼のさみしくない孤独 濑戸優理子

宮坂静生 特選・佳作

水底は大きな伽藍鳥渡る 新出 朝子

佳作 在ることの淋しさが透く海月かな 古川 和

青年の部 準賞 野口る理 選

冬の波あく光りぬエリイカの群れ 小根 楓子

青年の部 準賞 岡田由季 選

キッチンにごつい素足でてきてくれる 横山 航路



前日祭壇上：左から成田、彌榮、
松王、田島（敬称略）



大会：高野会長の挨拶

◆◇ そのほかの俳句・文芸の大会結果 ◇◆

第四四回 時雨忌全国俳句大会（関係分）

井上康明選 佳作

ことづての空へ溢れて花辛夷

松山 りさ

一頁～二頁 石井 美鬚
すこし酔いすこし話して白鳥に 石川美智子

三頁～四頁 故永しほる
自分史の横に別冊雪の巻 岡本 順子

衆三

金井

向日葵をいま地に還す 晩鐘

月を見ながらそこまで連想した作者に脱帽であり、生命の神秘の深さ、大きさを想わずにはいられない。

海に誕生したらしい。私達の体の生機能もその流れと無縁ではない。親から遺伝子を受け継ぎ、心臓や肺だけでなく、腸内細菌も休みなく働き静謐な印象の一旬。「雪」は道民の価値観に無意識レベルで影響を与えていることは容易に想像がつくし、そんな自己と環境の距離を「自分史」と「別冊」に象徴させる点が素晴らしい。

えてして「すこし」といった表現は、「弛める」と辛口に評されるのが、しかし、どうしても「すこし」でしか表現できないと思うことがある。そんな悩ましい「すこし」を、リフレインすることで、使いこなし詩情を醸成した技法に、ただただ感服しました。

アスパラの花よマリアは嬰を抱き

遠藤由紀子

はて？アスパラの花って？とすぐネットで調べたりせずに、ここで、イエスを抱くマリアと衝撃するに相応しい花を想像してみる。そしてその想像の虚像と、実物との差こそが、深い味わいとなつて、此方の情動を刺激し、あるいは、併味だなどと、二やつとさせるのだ。この句のように。

茄子漬や真昼の海の深くなり

倉部 仁子

「茄子漬」と深海の取り合わせが効果的な一句。「真昼の海」の明るく若々しいイメージが「深くなり」で垂直に降りしていくことで文字通り深化していく。この変化が新鮮な茄子が良い具合に漬かっている様子とも響き合っている。

（ゆえなが・しほる 北十）

変はりゆく顔と向き合ふ初鏡

中田 琢志

句意の着眼点が独創的であり、かつ俳諧諺に満ちている。月は見る人に様々な内省を促し思いを深くさせ、人々を人たらしめる力を持っており、洒脱な作者らしい一句を授かつた。詩的でユニークな発想と、印鑑という実社会で使われてきた印鑑を併記することで句の幅が大きく広がつた。

満月を受け取る印鑑用意する

鹿岡 真知子

が印象的に感じられる。北竜町で見た向日葵は大きく、一つの身体に感じられた。土の養分にするために埋められるのだろうが、そのどこか不安な姿と「晩鐘」が響き合つている。

中現俳及び中現俳会員主催

「青のフロント」

毎偶数月第2土曜日 13～16時
かでる2・7 当季雑詠2+席題1の3句
問合先・五十嵐秀彦 TEL 011-852-7014

毎月第4日曜日 13～16時

かでる2・7 当季雑詠+席題の2句

問合先・石川美智子 TEL 0133-74-7401

「帯俳句会」

北大俳句会「えぞりす」
大学生・高校生を中心とする句会
問合先・横山航路
Hokudaihaiku@gmail.com
X(旧Twitter) @hokudaihaiku

中現俳及び中現俳会員主催

「たんね句会」

毎月1回 月曜(日程確認)10～11時半
手稲区民センター 当季雑詠3句
問合先・安田中彦 TEL 090-2819-0088
soyo07soyo01@ybb.ne.jp

湖の神秘性は、有名な、高い透明度に基づくと思われているが、実はあの緻密な輪郭を描く外輪山によつてもたらされているのですね。

（いい・びぜん ペガサス）
五頁～六頁 石本 雪鬼
体内に原始の海や臍月
斎藤 雅美

地球に海ができたのは四十億年前
で、その後初めての生命がその原始の

※みなさまに案内したい句会がありましたら広報部までお声掛け下さい。紙幅のある時に掲載させて頂きます。

フォツサマグナ背骨の折れた秋の蟬

廣田 和久

ここ数年政治に無関心ではいられない状況が続いている。それに絡めて掲句を深読みさせて頂いた。作者はフォツサマグナを日本列島の背骨＝国の屋台骨となる政治と捉え、その不安定さを秋の蟬と詠む。然も無いはずの背骨が折れたとすることで政局の混乱ぶりをも窺わせている。折りしも今秋、また総理交代が…。

くちびるの紅どんがらせて七五三

前田未来子

近頃の七五三は満年齢で行うことが多く、写真館での撮影に始まり参拝へという流れのようである。例え三才でもお姫様七才ともなればタレント気分？口元を尖らせているのは紅を塗られる時の仕草か、褒められて照れて笑っている表情か、それともそろそろ疲れて駄々を言い始めたのか。とんがらせてに焦点を合わせ女の子らしさを詠んだ微笑ましい句。

Tシャツのはためく余白夏の天

平岩 真美

洗剤のコマーシャル映像を見るような清潔い写生句。天気を気にしながらの洗濯。干し終えて晴れている空を見上げながら一句が成ったか。はためくにより物干し場の広さも読め、はためくTシャツは白に限ると思つてしまふ。季語も夏の空ではなく天であることが句の景を一層広くしている。（なかだ・まちこ 中現俳幹事）

雪探しホノルル行きが空を割く

村上 海斗

アジア路線が増えてホノルル直行便は消えてしまったが、新千歳空港での見送りシーンに違いない。冬は展望デッキが閉鎖するので、三階から見上げた空か。「お正月をハワイで過ごすんだね。僕を置き去りにして」と口には出来ず、雪の中へ消えていく機体を恨めしそうに眺めているのだ、きっと。

星月夜たまごを抱へたる化石

村瀬ふみや

標本名はシチパチ・オスモルスカエ。モンゴルのゴビ砂漠で発見された卵を抱えた恐竜の化石で、福井県立恐竜博物館に展示されている。約七五〇〇万年前に生息していたオヴィラプトルはペットに出来そうなくらいの大きさだ。砂漠の星月夜を想像すると、簡単に時空を超える気がした。

埋火や臍から背骨までの息

故永しほる

ヨガ教室に通っていたことがある。鼻呼吸しながら体の部位、たとえば指先を意識すると、不思議と血流が良くなり、指先さえ温かく感じる。臍から背骨までなら、猫のボーズだろうか。静かに、したたかに、ゆっくりと息を吸って吐く。内に秘めたる思いや感情を代弁してくれる埋火という季語が、体をほぐしてくれるようだ。（みたに・ななこ 雪華・ita-k）

第35回 中北海道現代俳句大会のご案内

- 1 日 時 令和8年4月5日（日）13時より
- 2 会 場 かでる2・7 520号室 札幌市中央区北2条西7丁目1 TEL 011-204-5100
- 3 会 費 大会費：1,000円（学生無料） 当日受付にて申し受けます
- 4 講 演 豊川容子氏（アイヌシンガー・北海道立文学館評議員）演題「未定」
- 5 講 評 道内外主要作家
- 6 応募規定 2句1組 1,000円 但し高校生以下は4句まで無料 ※新作未発表作品に限る
所定用紙または200字詰原稿用紙 ※所定用紙は下記協会HPからDL可
<https://gendaihaiiku.gr.jp/area/naka-hokkaido/>
※出句料（定額小替為等）は作品に同封する（返金不可）
- 7 送 付 先 〒066-0027 千歳市末広4-3-2-210 栗林方 村瀬ふみや TEL 090-3468-6766
- 8 締 切 令和8年1月19日（月）必着
- 9 問合せ先 〒062-0020 札幌市豊平区月寒中央通10-1-1-301 中田琢志 TEL 090-3898-2322
- 10 賞 品 大会賞他
- 11 懇親会 ニューオータニイン札幌（中央区北2条西1丁目1の1）にて午後4時45分から
- 12 懇親会費 5,000円（予定） ※大会受付にて申し受けます
※懇親会のキャンセルは当日2日前までとし、連絡無き欠席の場合は会費を頂戴します
※感染症対策を含めた諸事情により変更になる場合があります

◆ なお当日は第26回中北海道現代俳句協会賞の顕彰も併せて行われます ◆

土岐 錬太郎

土岐 錬太郎

略歴 大正九年～昭和五二年、享年五六。新十津川出身。昭和四二年、現代俳句協会賞受賞。京都の龍谷大学に在学中、日野草城に師事。「太陽系」「青玄」に所属。昭和一〇年、新十津川にて「アカシヤ」創刊。豊頃に入植していた細谷源二を昭和二二年に見つけ出し、砂川の東洋高庄に就職させたことが「砂金帶」「水原帶」の創刊につながるなど、戦後の北海道俳句界に大きな影響を残した。昭和五二年、肺臓ガンにて死去。昭和五四年、遺句集『北溟抄』。

大枯野の吐く虹のこと半生を
花菜畠は嗚咽のための終の場所

喪のわれをちらと一瞥羽抜鶏
落の臺もえて無欲な雲さそう

—雪華・アジール—
五十嵐秀彦抄出

末岡睦

略歴 大正十四年（平成三年、享年九三）。小樽市生まれ。小樽高女卒業後、女子英学塾（現津田塾大学）を経て帰樽。昭和二年開店の「すえおか」名物女将。のちに伊藤整、小林多喜など名だたる文豪や政財界の大物との交流を文学資料室「地獄坂」として公開。俳誌「粒」「未完現実」に参加。「海程」にて金子兜太に師事。平成二年、社八郎・一原九糸郎（モノタイプ版画家・一原有徳）との三人句集『潮見台』。

姑にも一理鳥賊の臓腑をぐつと抜く

欲しいと思わずや大雪渓のわれを
曼荼羅の縁雨薄明われは一粒
「雪華」・「アジール」 青山醉鳴抄出

第35回 北海道現代俳句大会のご案内 (北海道現代俳句協会主管)

- ◇日 時 令和8年6月14日（日）13時より 大会会費 1,000円
◇場 所 旭川トーヨーホテル（旭川市7条7丁目右1号）TEL 0166-25-7575
◇講 演 家藤正人氏（俳人・株式会社夏井&カンパニー）
◇演 題 「未定」
◇講 評 道内主要作家
◇応募規定 2句1組 1,000円 所定用紙または原稿用紙を使用、投句料は作品に同封のこと
◇応募先 ☎078-8320 旭川市神楽岡10条1丁目2-2 加藤ひろみ
◇出句締切 令和8年3月末頃（詳細未定）
◇懇親会 大会後同会場にて 懇親会費 未定（当日受付にて）

◆ 詳細は引き続き会報106号にてお知らせいたします ◆

第26回 中北海道現代俳句賞 作品募集

〈応募要領〉

- 1 応募作品 題名をつけ、未発表20句（過去の応募作品の再応募は不可）
- 2 募集期限 令和7年12月15日消印まで
- 3 募集対象 令和7年11月15日現在、中北海道現代俳句協会会員の方
または石狩空知後志振興局管内にお住まいの非会員の方
- 4 応募用紙 指定の用紙を使用 会員には会報105号に同封
※非会員の方は顕彰係へ返信用封筒にて・住所・氏名を記載し
切手貼付のうえ指定の用紙を請求下さい
※以下の協会HPからダウンロードも可能です（A4にて2枚）
<https://gendaihaiku.gr.jp/area/naka-hokkaido/>
- 5 応募方法 応募料3,000円を定額小替為、または現金書留にて指定用紙同封
- 6 顕彰 令和8年4月の中北海道現代俳句大会席上
- 7 作品送付先 〒061-2284 札幌市南区藤野4条5-19-6
菅井美奈子方 中北海道現代俳句協会 組織活動部行
- 8 選考者 五十嵐秀彦・亀松澄江・斎藤雅美・瀬戸優理子・松王かおり 以上5氏
- 9 問合先 会長 五十嵐秀彦 TEL 011-852-7014
顕彰係 菅井美奈子 TEL 011-592-6426

幹事会報告

R7.9.18(木) かでる2・7 610室

- 1 俳句研究交流句会結果報告（組織活動部）
- 2 令和8年度総会及び新年交流会（事務局）
- 3 第26回中北海道現代俳句賞（組活部・顕彰係）
- 4 会報105号 他（広報部）
- 5 第35回中北海道現代俳句大会（事業部）
- 6 その他／会員動向他（事務局）
「俳句カフェ」取組（会長）

R7.11.20(木) かでる2・7 610室

- 1 令和8年度総会及び新年交流会（事務局）
- 2 第35回中北海道現代俳句大会（事業部）
- 3 第26回中北海道現代俳句賞（組活部・顕彰係）
- 4 「俳句カフェ」（会長・副会長）
- 5 三役・顧問・選者の会（事務局）
- 6 会報105号・106号（広報部）
- 7 その他／会員動向他（事務局）

〈第31回東北海道現代俳句大会〉

- 1 日 時 令和8年4月19日（日）時刻未定
- 2 会 場 釧路市内（会場未定）
- 3 講 演 石川青狼氏・粥川青猿氏
演題「鈴木八駿郎を語る（仮題）」
- 4 出 句 令和7年12月応募開始
令和8年1月下旬頃締切※詳細決定次第ご案内
- 5 出句先 〒088-0612 釧路郡釧路町雁来1-34
西村奈津子 TEL 0154-36-7823
- 6 問合先 〒084-0903 釧路市昭和町2-15-4
鮒橋郁香方 TEL 0154-55-4588
FAX 0154-68-4018

一般社団法人 現代俳句協会 入会のご案内

（一社）現代俳句協会では、多くのみなさまのご入会をお待ちしております。ご家族・ご友人にも是非ご紹介ください。
入会金・年会費など事務局までお問合せ下さい。

中北海道現代俳句協会 会費納入のお願い

当会年会費2,000円の納入は
振込です。手数料もご負担
下さい。口座番号は以下です。

02780-9-48961

中北海道現代俳句協会 入会のご案内

当協会にはお住まいの地域に関わらず入会頂けますが、その際
上記（一社）現代俳句協会の入会が必須条件です。ただし他の
地区協会にて既に（一社）現代俳句協会会員となっている場合、
重ねての入会は不要です。不明点は事務局にお尋ねください。

令和8年度 総会・新年交流会

<総会>

- ・日時 令和8年2月7日(土)
10時半より
- ・会場 かでる2・7 (730室)

<新年交流会>

- ・日時 令和8年2月7日(土)
12時より
- ・会場 ホテルポールスター札幌
(中央区北4条西6丁目)
- ・会費 3,800円(予定)

※往復葉書にて詳細をご案内いたしました。恒例の一人一句集の募集も兼ねます。必ず出欠・ご投句を記載の上、ご返信ください。欠席の方は委任状に記名下さいようお願い申し上げます。

※会員名簿作成の為、返信葉書下部に個人情報掲載事項についての確認欄があります。上記と併せて必ずご記入をお願いします。

今年度の中北海道現代俳句協会の行事もおよそ終了し各イベントとも皆様のご協力のもと催すことができました。ありがとうございました。一月は第二五回中北海道現代俳句賞の選考委員会があり「少し後ろ」のFよしとに受賞が決定。二月一日は今年度の総会を開催二四名の参加者と六四通の委任状をもつて総会成立および各議題の承認を得ました。本年は二年ごとの役員改選に当たり新執行部として二名の新副会長、瀬戸優理子氏、松王かをり氏が選出されました。また石本・亀松前副会長には参与として会運営にご意見を頂くことになりました。総会終了後、場所をホテルポールスター札幌へ移動、参加者二四名にて新年交流会を行いました。四月六日は中北海道現代俳句協会大会の開催、講演に北海

道アーカイブセンター代表の古家昌伸氏を招き道内文芸の記録と資料保存について講演があり、大会終了後札幌ガーデンパレスにて懇親を行いました。三三名の参加者にて各自懇親を深めました。八月三〇日に「俳句研究交流句会」を開催、三七名の参加者全員が選句講評を行い、交流を深めました。次に「俳句カフェ」を本年も開催いたしました。当会講師三名が企画し、俳句の魅力また新会員の加入推進、情報提供など多くの目的をもつて開催したものです。今後も皆様のご参加とご協力をお願いいたします。

最後になりますが、後日送付する次年度総会・一句集ご案内の葉書に、来年度配布の名簿作成の為、掲載事項について記載・不記載のご希望をチェックする欄を設けました。どうぞお忘れなくご記入してご返送頂きたくお願い申し上げます。

およそ終了し各イベントとも皆様のご協力のもと催すことができました。ありがとうございました。一月は第二五回中北海道現代俳句賞の選考委員会があり「少し後ろ」のFよしとに受賞が決定。二月一日は今年度の総会を開催二四名の参加者と六四通の委任状をもつて総会成立および各議題の承認を得ました。本年は二年ごとの役員改選に当たり新執行部として二名の新副会長、瀬戸優理子氏、松王かをり氏が選出されました。また石本・亀松前副会長には参与として会運営にご意見を頂くことになりました。総会終了後、場所をホテルポールスター札幌へ移動、参加者二四名にて新年交流会を行いました。四月六日は中北海道現代俳句協会大会の開催、講演に北海

道アーカイブセンター代表の古家昌伸氏を招き道内文芸の記録と資料保存について講演があり、大会終了後札幌ガーデンパレスにて懇親を行いました。三三名の参加者にて各自懇親を深めました。八月三〇日に「俳句研究交流句会」を開催、三七名の参加者全員が選句講評を行い、交流を深めました。次に「俳句カフェ」を本年も開催いたしました。当会講師三名が企画し、俳句の魅力また新会員の加入推進、情報提供など多くの目的をもつて開催したものです。今後も皆様のご参加とご協力をお願いいたします。

最後になりますが、後日送付する次年度総会・一句集ご案内の葉書に、来年度配布の名簿作成の為、掲載事項について記載・不記載のご希望をチェックする欄を設けました。どうぞお忘れなくご記入してご返送頂きたくお願い申し上げます。

会員動向

<入会>

風花	まゆみ	・小根	楓	子
ただす	みれ	・星	伸	昭
松山	りさ	・横山	航	路
蓑谷	佳華	・風花	美	絵

<退会>

近藤ゆたか

会員数114名(R7年11月現在)

入会問合先

事務局 Fよしと
TEL・FAX 011-641-1007